

友田、古い肘掛け椅子に腰を下ろし、文庫本などを読み始める。  
ーと、階下のまた別の部屋から、同じく旅行鞆をさげた箕面富佐子が  
出て来て、友田同様自分の名札を外して鞆に仕舞う。富佐子、鞆を置  
くと、まるで狙いすましたかのように友田の正面の椅子に腰掛ける。

友田 (少々驚くが、会釈をする)

富佐子 (煙草をくわえて) マッチ。

友田 え？

富佐子 マッチ持つてる？

友田 すみません、煙草のまへんです。

富佐子 そう。(自分のマッチを取り出す)

友田 ……(驚いて、それを見る)

富佐子 (マッチを差し出して) つけて。

友田 は？

富佐子 あたながつけて。

友田 でも…。

富佐子 いいから、つけて。

友田 はい。(マッチを擦る)

友田の擦ったマッチに顔を近づけて煙草に火をつける富佐子。

まるで映画の一場面のように見える。(この場で富佐子は、全体が、  
やや芝居がかっている)

富佐子 ……ありがとう

友田 いいえ。

富佐子 (うまそうに煙草を吸いっつ) ……誰かにつけてもらいた  
かったの最後に吸う煙草の火くらい。

友田 ……

富佐子 誰かに少しだけ優しくしてもらってから、この街を出て行き

たかったの。

友田 出て行かはるんですか？

富佐子 ええ、出て行くの。このアパートから。この街から。この東京から。(くわえ煙草のまま立ち上がると、早坂の部屋まで行き、そのドアをノックする)

ピアノ音、止む。

富佐子 ねえ、「別れの曲」っていうの、弾いて。(と一円札を取り出し、早坂の部屋の前に出されていた牛乳瓶の中にねじ込む)

友田、少々ビクつきながら富佐子の行動を見ている。

・・・と、ピアノの音、ショパンの別れの曲に変わる。

富佐子 学生さん？

友田 (あわてて目をそらしながら) いいえ。

富佐子 ごめんなさい、そんな風に見えたもんだから。

友田 三カ月ばかり、この先の理化学研究所に。

富佐子 東京、楽しい？

友田 いえ、その。

富佐子 楽しいことには事欠かないわよ、この街は、

友田 はい。ですけど。

富佐子 レビュウ見たことある？

友田 いいえ。

富佐子 レビュウ、新劇、ダンスホール・・・あなたの専門は？

友田 原子物理学です。

富佐子 それに原子物理学と。何でもあるのよ、この街には。

何でもあって・・・でも結局、何も手に入れない街なの。

友田 . . .

・・・短い間